



藤井寺市観光ボランティアの会

# 美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1 (藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)

TEL : 072-939-1086 FAX : 072-936-9777

検索 藤井寺 観光 ボランティア

第 17 号 2016 年 7 月

## 《 平成 28 年度にむけて 》

藤井寺市観光ボランティアの会 会長 小野常芳

昨年度、当会は発足より 10 年を迎えることができました。これも藤井寺市をはじめ多くの皆さまの応援のお陰と感謝いたしています。10 周年記念誌の発行や道明寺天満宮の記念植樹、テント一式の購入、新コースの設置などを行うことが出来ました。

今年度は、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録もあと一歩となり、この 10 年間培ってきた「ガイドスキルやおもてなし」の成果を発揮すべき日が迫って参りました。古市古墳群も徐々に整備が進んでいますが、種々な施設やサービス面は十分な状態とは言えません。我々は観光客に直接接する観光ガイドとして「スムーズな誘導や明瞭で楽しい説明」が求められます。

この為に当会は新たに「世界遺産登録対応プロジェクトチーム」を編成します。

世界遺産推進協議会や他の団体からの要請も増えると考えられます。それらに対応しつつ、皆様と更なる知恵を出しあい、ガイドのスキルアップや説明文の簡略化、その習熟を期した活動を展開したいと思います。

今期より私のモットーを“ALL is WELL!”(きっと うまくゆく!)にします。皆様の更なるご協力をよろしくお願い致します。

## 《 平成 28 年度の活動について 》

このたび、事務局幹事を担うことになりました山本です。微力ですが、会長を初め各部との連携を保ちながら、役割を果たしたいと考えています。

さて、今年も世界遺産国内推薦決定を控える時期となりました。巷間では、百舌鳥・古市古墳群が推薦されることへの期待が高まりつつあります。

これらの状況を踏まえ、本年度は従来の活動に加えて、世界遺産にむけての体制づくりに主眼が置かれます。予想される来客者数の激増に対し、その案内や方法の再検討をする必要があります。関係機関や団体との連携では、これまで以上に協力態勢を組むことが望まれます。

今年度も引き続いて「おもてなしの心」をベースとして、従来の活動を継続しながら地元の方々とも繋がりを深め、元気に楽しく活動したいと思います。どうか、皆さまがたのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。(事務局 山本)

## 《 世界遺産推進室との懇談会から 》 5月24日

文化庁の文化審議会世界文化遺産特別委員会は、2018年にユネスコの世界文化遺産への登録を目指す国内候補を、7月下旬に決めることを確認されました。(8月になることもあります)その結果、9月末までに政府がユネスコ世界遺産センターに推薦書(暫定版)を提出します。

文化庁によると、百舌鳥・古市古墳群のほかに金鉱山のある佐渡の遺産群、長崎の教会群とキリスト教関連遺産や北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群など3件の推薦書が地元自治体から出されており、この中から1件が選ばれることとなります。

現在藤井寺市地域では、新たに造った説明板にQRコードを整備中で、すでに津堂城山古墳と仲哀陵古墳を除いて稼働中です。これからはスマートフォンなどの活用が可能となります。(清瀧)

## 《 道明寺天満宮梅まつり・投句 》

道明寺天満宮で、毎年恒例の「梅まつり」が開催されました。当会では、2月11日から29日まで境内にテントを設置し、訪れる方々に天満宮の縁起や古市古墳群、道明寺合戦の地図等の配布や案内を行いました。

初日は、お天気もよかったことに加え、前日にテレビ放映もされ、天満宮の梅に魅せられた大勢の参拝客でにぎわいました。

今年は日曜日のNHKの大河ドラマ「真田丸」の影響か、道明寺合戦に興味をお持ちの方が、市内外を問わずたくさんいらっしゃいました。

満開の梅を觀賞した後、この近隣の歴史遺産を巡りたいと言う方もおられました。また、観光マップを眺めながら、道明寺合戦の東軍・西軍の陣の動きについて話が弾む場面も多く見られました。夏の陣の舞台となったこの地の歴史にロマンを感じられたのではないのでしょうか？俳句の奉納や家族や友人と連れ立って梅園散策など、さまざまな方が毎年お参りに来られる梅まつりは、楽しい年中行事の一つになっています。期間中においていただきました方々、天満宮の関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。（松村）



## 《 ふじいでら春季ウォーク 》ーさくらと道明寺合戦跡めぐりー 4月2日（土）

昨日の雨もやみ、この日しかないほどの快晴。集合場所の道明寺天満宮の桜も、合わせた様に満開となりました。今年の春季ウォークは、さくらと道明寺合戦がテーマです。まずは玉手山を目指してスタートしました。たかが玉手山、されど山ですから、坂道の連続にフーフーの声。

昔、子供を連れて来たと言われるご高齢の方もおられ、昔の遊園地を懐かしむ声が続出しました。本日のウォークのテーマにかかわる、最初の主人公後藤又兵衛の碑を見て、続いて東軍の集結地である国分を見下ろしました。小松山で道路の真ん中にあるポストを見つけ、「珍百景」の声に大笑い。石川の河川敷では今まで歩いてきた古戦場を見上げながら昼食をとりました。午後からは第二の主人公薄田隼人の碑を経て、合戦クライマックスの主人公真田信繁と片倉小十郎が激突した誉田古戦場と誉田八幡宮へと進みました。



最後の主人公である信繁の長男、真田大介が陣を張ったとされる古室山古墳の頂上で、真田信繁（幸村）の子供たちについて話をしました。現在放映中のNHK大河ドラマ「真田丸」の今後の展開が楽しみですといった声もチラホラと聞こえてきました。

コースの最終地点である、鍋塚古墳に登り、藤井寺の歴史に想いを馳せながらお別れとなりました。

本日参加くださった184名のお客様ありがとうございました。（林良）

## 《 赤面山古墳での発見 》

当日のガイド予定は葛井寺から道明寺天満宮までの半日コースでした。案内も順調に進む中、赤面山古墳では発掘調査の方から声がかかり、見学させて頂けることになりました。私達は盛り土のような小さな土山から、出土した円筒埴輪や葺石等を目の当たりにして、古墳として再確認されたことに感激しました。

このようなハプニングに出会えたこととお客様の好奇心旺盛な笑顔を垣間見る事で、私たちも有意義な一日を終える事ができました。

（吉田千）

2つの円筒埴輪が出てきました

葺き石群



## 《 葛井寺藤まつり 》

今年も藤まつりの季節になりました。くぐればすぐに藤の花が出迎えてくれる南大門北側に、4月19日(火)から30日(土)まで当会のテントブースを開設しました。21日と28日以外はまずまずのお天気でしたが、気温差のある日が多かったように思います。

2週間を通じて、テントには1263名、26日には最も多い178名のお客様が来られました。近郊ばかりだけではなく、東京や広島など遠方からも多くの方が来られていることに驚きました。

23日(土)と24日(日)には去年と同様に古代衣装を貸し出しているの撮影会を開催しましたところ、2日間で30組、70名の方々に参加頂きました。

「普段ならこんな赤い色は恥ずかしくて着られないけど、この古代衣装は平気やったわ、いい思い出になりました」と少し年配の女性、「もっと着ていたい」と泣いた女の子、ベビーカーの妹を指さして「来年は一緒に着せてね」とほほ笑む女の子、小さな約束が出来ました。またどなたかが「言葉で言うよりもこれ(古代衣装の撮影会)が葛井寺の一番の宣伝になるなあ」と。

静かに降り注ぐ雨のしずくのように連なって咲く藤の花の下で、それぞれにこぼれるような笑顔で写真を撮られていました。藤の花言葉は「優しさ」ほのかな香りとともに、きっと人々の心を満たしてくれたことでしょう。

葛井寺や藤まつりの関係者の皆様をはじめ、足をお運びくださった方々、そして藤の花に心から感謝いたします。(井関)



## 《 小学校世界遺産学習フィールドワーク 》 藤井寺南小学校6年生 5月11日実施

藤井寺市教育委員会が市内全小学校の6年生568名を対象に実施している世界遺産学習に、当会も各古墳などの説明の担当として参加しました。

今回は、午前の降水確率60%の中、予定より少し遅れて応神天皇陵外堤から子ども達の学習班がスタートしました。心配していた雨もほとんど降らず、曇り空の下でも子ども達は元気いっぱいでした。傘やレインコートにもめげず熱心にメモを取りながら説明を聞いて、質問にも間髪を入れず答えてくれました。私が担当した「仲姫命」の読み方が難しく、「なかつひめのみこと」とみんな練習しました。「卑弥呼!」という迷答もあり印象に残っています。きっと学校で古墳や被葬者について学んでいる最中なのでしょう。教科書の写真だけではなく、自分の目で本物の古墳を確かめられる藤井寺市に住んでいる幸運を肌で感じてほしいと思いました。私たちがそのお手伝いを出来るということは本当に嬉しい限りです。

この日、地面が濡れていたために、小学生たちは古室山古墳で昼食をとって遊ぶことが出来ず残念な様子でした。この学習を機に、これからも藤井寺の古代歴史遺産への興味を持ち続けて欲しいと思いました。

(中澤)



## 《 古墳の新しい説明板に思うこと 》



今年の3月に市内の主な14基に「説明板」が新しくなった。タイトルは、「日本語・中国語・韓国語・英語」と国際色豊かな記載となり、内容説明も日本語・英語の説明となっている。見出しは「時代・古墳の形・墳丘長・出土したもの」の4分類からとなっており、古墳の特徴も簡潔に記載されている。しかも、航空写真・レーザー図あるいは出土品の写真も記載されており、古墳の状況が良く解るように工夫されている。

しかし、孫と近くの新しい「説明板」を読んでいた時、『「爺ジー、なかき・なかは」ってな～に?』と孫が聞いてきたのである。孫の指先を見ると「時代 古墳時代 中期中葉」と記載されていた。確か、旧い説明板では「5世紀中頃」と書かれていた部分である。これは孫だけでなくお客様が見ると『? ? ?』と首を傾げると思う。「時代」の説明に古墳時代前期(3c 中頃～4c 前半)・中期(4c 後半～5c 後半)・後期(6c)と前葉・中葉・後葉の組合せで表現されるが、ガイドする我々は解りやすい説明を心がけようと思う。(中島 進)

## 《 道明寺合戦について 》 一小松山攻防 東軍の作戦一

慶長 20 年 5 月 6 日午前、小松山で西軍後藤又兵衛隊 2 千 8 百と東軍水野隊など 2 万 3 千は、約 6 時間にわたって激闘しました。

この合戦前日、国分に陣取った東軍諸将は、先鋒水野勝成に「小松山が陣地に適している」と、小松山に陣を敷くよう迫りました。しかし、水野は「ここに駐留すれば、敵襲を支えることはできません。もし、敵が小松山にきたならば、本道（奈良街道）から回って玉手、円明の方に出て、敵を挟み討ちにしよう」と言って、小松山に陣をおきませんでした。

さらに、東軍伊達政宗隊の片倉重綱は「(小松) 山を敵に与えたかの如くに見せながら、山中に伏兵をおく。敵が押し寄せてきたなら、その時にこそ伏兵が立ちあがって押し寄せれば、味方の勝利となろう」と、西軍が山を下って攻めやすいように、片山を 2 町あまり引き退って陣を張り、合戦の場を残しました。

早暁、後藤又兵衛隊は「ただちに小松山を占領すべしと命じ」石川を渡って小松山に陣を張りました。数回にわたって東軍を撃退しましたが、ついに三方面より攻撃を受けるにおよんで、又兵衛は討死、後藤隊は退却します。

まさに、東軍の作戦通りの展開となりました。後藤隊は、力で小松山を「占領した」と思われがちですが、実は、東軍の策略で「占領させられた」のではないかと考えられます。そのため、マニュアルでは「後藤隊は小松山に陣取った」と表現することにしました。

(参考)・『日本の戦史 大坂の役』から

「②道明寺」「伊達の将 片倉重綱[明良洪範]」



大和川より小松山を望む

## 古墳のある風景 8 エッセイスト 川上 恵

### 桜をめでた天皇

允恭の陵は家から歩いて数分の所にある。前方部を北に向けた悠然とした古墳は、馴染んでいるせいか、愛着はひとしおである。江戸時代、墳頂部は綿畑だったらしい。河内地方は河内木綿の産地であった。綿の花は可憐だ。中心部が臙脂色（えんじいろ）の薄黄色の花弁は、嫋々（しょうじょう）とした風情で、掌に包み込みたくなる愛らしさだ。

花の命は短い。夕方には桃色に染まり恥じらうように花弁は萎む。そして秋には雪のような純白の綿を吹く。さぞ美しかったろう。

允恭天皇の名を知る人は少ない。ものの本によると、病弱だが慈悲深い天皇だったようだ。病気を理由に天皇の座を再三辞退したが、皇后の勧めを受け入れ即位を決める。だがそんな天皇も皇后を深く悩ます恋をする。皇后の妹・衣通姫(そとおひめ)との恋愛は一途で、美しくも哀しい。こんな歌が残っている。

花細(ぐわ)し桜の愛(め)でこと愛では早くは愛です我が愛づる子ら  
(なんと繊細な桜の美しさ美事さよ。どうせ愛するのなら、もっと早く愛していたかった。そうしなかったのが悔しいよ、愛しい姫よ)

夕暮れの允恭陵はことに美しい。何羽もの白鷺が、朱く染まった陵のねぐらに帰って行く。そして春には山桜が一本だけ、哀しい恋を知ってか墳丘の中ほどに咲く。



允恭天皇陵古墳